

## 経鼻内視鏡

経鼻内視鏡検査とは、鼻から細いカメラ（内視鏡）を挿入して、食堂・胃・十二指腸を観察する上部消化管内視鏡検査のことです。従来の口から内視鏡を入れる検査法に比べて比較的楽に検査を受けることができます。

### 苦痛の少ない経鼻内視鏡検査

「胃カメラは苦しい、辛い」というイメージをお持ちではないですか？

鼻からの内視鏡検査の場合は舌の根元に触れることなく挿入されるので、咽頭反射が起きないため、ほぼ吐き気なく胃の検査を行えます。

当院では、先端 5.9mm の細径の経鼻内視鏡を導入して、『苦痛の少ない』胃カメラを心がけています。

「鼻からスコープ入れて大丈夫？」「痛くない？」と心配されるかもしれませんが、きちんと前処置（鼻腔内の局所麻酔）をすれば心配ありません。

### 経鼻内視鏡の特徴

#### ① 咽頭反射による嘔吐感ほとんどない。

咽頭反射は舌の奥にある舌根部に触れるためおこります。

経鼻法では舌根部に触れず検査できるため咽頭反射が起こりにくくなります。

#### ② 査中に会話が出来る

鼻からの内視鏡検査の場合は、口はふさがれていないので、検査中でも会話することができます。医師と会話でのコミュニケーションをとりながら検査が可能で安心です。

#### ③ 身体への負担が少ない

口からの検査に比べ麻酔の量が少なく身体への負担も軽減します。

#### ③ すぐ日常生活に復帰できる

鼻からの内視鏡検査の事前準備は、鼻腔内（びくうない）への少量の局所麻酔のみで済みますので、検査終了後 1 時間程度で飲水や食事をすることができます。車の運転も可能です。

### 胃内視鏡検査の流れ

#### 検査前日

前日の夜 9 時以降から検査終了までは飲食を避けてください。また水以外は飲まないようにしてください。普段から就寝前に薬を服用している方は、いつものようにお飲み下さって結構です。早めに就寝しましょう。



#### 検査当日

検査終了まで飲食（水は除く）・喫煙はしないでください。また薬の摂取も避けてください。（常用薬を服用されている方は事前に医師にご相談ください。）



## 検査前処置（鼻腔内の局所麻酔）について

### 前処理の実施手順



- ①問診 - 危険を避けるための事前チェックです。
  - ②胃の中の泡を取り除くための消泡剤（ジメチコン水）を飲みます。
  - ③両側の鼻腔内に血管収縮剤（塩酸ナファゾリン）を噴霧します。
  - ④スコープを挿入する側の鼻腔を決定し、挿入側の鼻腔内にゆっくりとゼリー状の麻酔薬（2%リドカインゼリー）を注入します。
  - ⑤スコープを挿入する側の鼻腔内に麻酔薬（2%リドカインゼリー）が塗布された外径4mmのスティックを挿入します。（約1分間）
  - ⑥同様の処理をされた外径6mmのスティックを挿入します。（約1分間）
- 上記の前処置を行った後に検査を始めます。基本的に前投薬として麻酔薬（鎮静剤）の注射等はありません。



### 検査中

医師が3~10分程度モニターに映る胃の中を観察いたします。  
検査中でも質問や気分を伝えたいとき、会話は可能です。



### 検査後

約30分は麻酔が効いていますので飲食・喫煙は避けてください。検査中に中をよく観察できるように空気を入れるためお腹が張った感じが残る事がありますが、ゲップやガス(おなら)として出れば治ります。検査時間は約15分です。画像を写真にして検査後に診察があります。

その他、検査についてご質問等ありましたらお気軽にお聞き下さい。

※鼻腔内視鏡が受けられない場合

鼻腔が狭いときや鼻の病気がある場合などは、痛みや出血で鼻からの挿入が難しい場合があります。その時は無理をせずに、口から挿入しての検査となります。